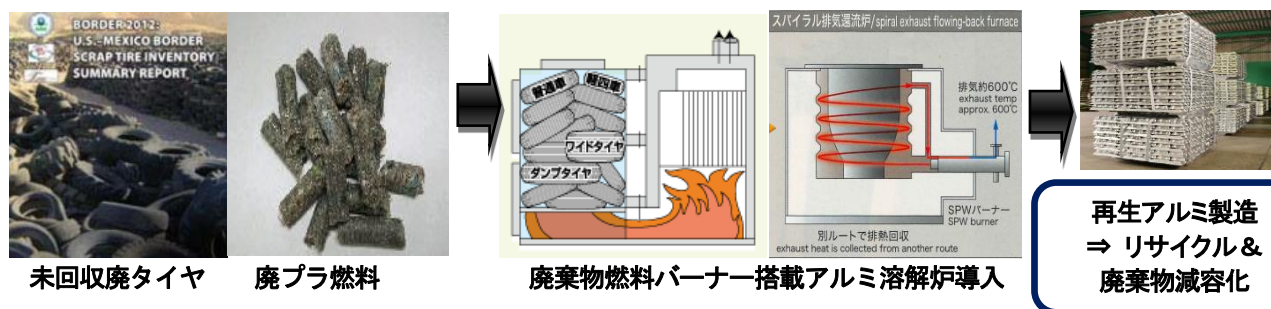


メキシコの自動車産業に再生アルミを 富山の環境炉 海外市場を目指す

国際協力機構(JICA)は1月26日、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において北陸テクノ株式会社(富山県射水市、木倉 正明 代表取締役)が提案する「メキシコ国ケレタロ州における廃棄物燃料を活用した再生アルミ製造技術に係る案件化調査」を採択しました。

自動車産業が盛んなメキシコでは日系メーカーの進出も相次ぎ、生産・輸出の拠点となっており、販売市場も伸びています。一方、自動車部品製造技術が未熟なため部品の現地供給率は3割程度に留まり、アルミニウムは主に高価な輸入品に頼っています。また人口増加により増え続ける廃棄物の適正処理・リサイクル、さらには大気汚染等の環境対策が求められています。

環境に配慮した工業炉を製造する北陸テクノ社の「タイヤバーナー搭載アルミ溶解炉」は、廃タイヤや廃プラスチックを燃料として利用し再生アルミニウムを製造することができ、厳しい排ガス規制に対応しているためCO2削減効果もあります。本製品を、自動車メーカーが集積するメキシコの中央高原地域(ケレタロ州など)に普及することで廃棄物の減容化およびリサイクル体制の構築に取り組み、また技術移転を通じて現地裾野産業の発展を目指します。



本調査では、廃棄物処理や環境問題の実態、行政の取り組みおよび裾野産業の状況を確認し、ビジネス展開に向けた活動を行います。また現地技術者の人材育成も行います。

同社の取り組みにより、メキシコにおける環境問題の解決、廃棄物リサイクルシステムの構築、そして部品産業の育成に寄与することが期待されます。さらに北陸地域経済の活性化、両国の互助関係構築等に繋がることも期待されます。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2016年度第2回分は昨年9月に公示を行いました。36件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

参考:(プレスリリース)案件化調査2016年度第2回公示の採択結果について

URL: <https://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/index.html>

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 北陸 松柴 (まつしば)

TEL: 076-233-5931 E-mail: Matsushiba.Yuka@jica.go.jp